

# 党議員団、平和教育、市民生活擁護めざし活発に論戦

6月議会の一般質問で日本共産党議員団は、安倍内閣がすすめる「美しい国」づくりを批判、通園バス制度の統一、廃棄物の最終処分場問題、合併前上越市への地域協議会導入などで積極的な提案、論戦を行いました。

日本青年会議所制作のDVDアニメ「誇り」を教育現場に持ち込むなどの樋口議員の質問には、小林毅夫教育長が「第二次大戦などの歴史的事実をどう受け止めるかという諸説の一つを強調したもの。それだけを使用し、すべてであるかのようにして学習を終了してしまうのは適当ではない」と答弁しました。



## 最終処分場調査では、地元専門家の意見も聞くこと

【樋口良子】廃棄物の最終処分場適地選定調査業務委託の調査結果最終処分場について、建設に支障となる動植物の生息は確認されなかったとあるが、調査の内容はどうか。この調査結果を公表し、かつ地元の専門家による検証が必要だと思いがどうか。

【木浦市長】調査に当たっては、既存資料の分析調査と、既存資料からは知ることができない具体的な情報を把握するため、特に自然環境面からの現地調査を実施した。その結果、確認された動植物は、両生類ではヤマアカガエル、鳥類ではモズ、植物ではラン科の植物などであり、最終処分場の建設に伴い保全を必要とするような貴重な動植物は確認されなかった。

【樋口良子】予備調査のなかで地元の専門家の意見を聞くべきだ。  
【市村市民生活部長】予備調査の結果に基づいて地元の専門家の意見を聞いていきたい。そのやり方、中身については専門家と相談していきたい。

## 縄文時代や旧石器時代の学習は、歴史への興味関心を高める大切な学習内容

【杉本敏宏】「学習指導要領」で、日本の歴史は、「大和朝廷による国土統一」から教えればよいと指示した結果、教科書から縄文時代と旧石器時代が消えた。多数の遺跡をかかえる上越市の歴史教育に影響はないか。

【小林毅夫教育長】指摘のとおり、現行の小学校6年生社会科の教科書の記述は、米作りの始まる弥生時代から始まっており、それ以前の縄文時代や旧石器時代は項目を立てて取り上げられていない。

その理由は、平成10年12月の学習指導要領の改訂により時数の削減がなされたためである。さて、縄文時代や旧石器時代の学習は、児童にとって歴史への興味関心を高める導入となる大切な学習内容であり、歴史学習の導入場面や火起こしや土器作りなど先人の暮らしを追体験するような形で、これまで授業が行われてきた。

現在進めている上越市の総合教育プランでは、基礎基本を確実に身に付けるとともに、地域の教育資源を生かした特色ある教育活動を推進していくものだ。地域に残る教育資源としての遺跡や出土品などを今後も活用し、カリキュラム全体の時数に配慮しながら、地域を大切にした歴史学習を推進してまいりたい。

## 通園バス制度統一、保護者の意思確認すべきだ

【橋爪法一】通園バス制度の統一についての保護者説明会の総括を聞きたい。市の統一案でいいかどうかは、アンケート調査も実施し、関係者の意思を確認すべきだ。

【木浦市長】制度の詳細については、更に検討を進めていかなければならないが、制度統一の基本事項については、概ねご理解をいただけたのではないかと考えている。

ご提案のアンケートについては、この度の保護者説明会でのご意見を踏まえ、新たな通園バス制度に対する保護者の皆さんの意向を伺うためのアンケートを6月末までに行うよう既に計画している。このアンケートの中に自由意見欄を設け、様々なご意見をご記入いただけるようにしたい。

【橋爪法一】制度統一案がいいかどうかの確認は付けたしの設問ではだめだ。正面から問う内容に変えるべきだ。

【市村市民生活部長】検討したい。

【橋爪法一】市内の民間福祉施設等の労働実態については、低賃金、人手不足、過密労働などと聞か、把握しているか。

【木浦市長】平成18年度の県調査によると、1ヶ月の賃金は22万2千円、勤務日数は21日、実働時間は163時間となっている。一概に過密労働とは言えないのではないか。全業種の平均と比較すると賃金については約3万円低い。

## 日本共産党上越市議員団ニュース

97	2007年6月24日	
連絡先	杉本敏宏	524-3787 (東本町5)
	樋口良子	544-6802 (中門前3)
	橋爪法一	548-3628 (吉川区代石)
事務局長	上野公悦	530-2203 (頸城区中柳町)